

東京事典 TOKYO JITEN

公開録画イベント第3回目

【スケジュール】

- 18:30 挨拶、主旨説明
18:45 プレゼンテーション1: モーリー・ロバートソン(ミュージシャン)
19:00 質疑応答、意見交換、休憩
19:30 プレゼンテーション2: 田中陽明(co-lab主宰/クリエイティブ・ファシリテーター)
19:45 質疑応答、意見交換、休憩
20:15 プレゼンテーション3: 長谷英治、浅木大樹(nam Gallery) *一般公募による参加となります。
20:30 質疑応答、意見交換、まとめ
21:30 閉会

*本日参加予定だった古平正義(FLAME アートディレクター/グラフィックデザイナー)は、都合により11月3日の参加に変更となりました。何卒ご了承ください。

【プレゼンテーション概略】

プレゼンター: モーリー・ロバートソン(ミュージシャン)

キーワード: 過去と現在のはざま

1000年以上前の歴史を持つ日本は近代化の波をくぐってなお、伝統的な考え方や国際的な価値観を折衷させたコラージュの状態で存在している。開国から昭和を経て21世紀まで続いたひとつの大きなフォーミュラと世界観が今、破綻している。これから否応なく押しよせる変化を、これまでの抑圧をはねのけるチャンスとしていかに活用するか？

プレゼンター: 田中陽明(co-lab主宰/クリエイティブ・ファシリテーター)

キーワード: 場のシェア

最近流行のシェアやコ・ワーキングというテーマについて、2003年からスタートしたクリエイター専用のシェアード・コラボレーション・スタジオ co-lab での実証例などを挙げながら、様々なポテンシャルや今後の発展性等について語ります。更にデザインやアートなどの領域横断的なクリエイションについても触れたいと思います。

プレゼンター: 長谷英治、浅木大樹(nam Gallery)

キーワード: 交差線

特徴は比較や差を意識する事で浮き彫りになる。東京と他の街との差は、交差の数が断トツに多いことだ。そうした交差により、人との出会いは多いが、すれ違いも多いのだろう。せわしなく焦って生活をしていては、どんなに交差があってもそこから何かを見つけるのは難しい。そうしたすれ違いを避けるために、必要なのは心の豊かさに繋がるアートではないか。アートは最大のコミュニケーションツールとなり得る。それを活用しない手はないと考えている。

東京アートポイント計画とは？

「東京アートポイント計画」は、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指し、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。

Arts Initiative Tokyo[AIT/エイト]とは？

キュレーターやアート・オーガナイザー6名が、現代アートと視覚文化を考えるための場作りを目的として、2002年に設立したNPO団体です。個人や企業、財団あるいは行政と連携しながら、現代アートの複雑さや多様さ、驚きや楽しみを伝え、それらの背後にある文化について話し合う場を、さまざまなプログラムをとおして創り出しています。

今回は、10月27日(木)に開催します。ゲスト・スピーカーは、ヴィヴィアン佐藤(非建築家/美術家/ドラッグクイーン)、南條史生(森美術館 館長)、藤浩志(美術家)です。